

令和5年度第2回学校運営協議会 議事録

令和5年11月6日(月) 9:30~11:00

天竜特別支援学校 会議室

1 出席者

(1) 委員

尾関ゆかり氏、石田雄士氏、出沢茂氏、太田勝久氏、恩田斉氏、山下広矛氏、清水美保氏

(2) 学校関係者

校長、副校長、事務長、小学部主事、中学部主事、高学部副主事、教務課長

2 内容

(1) 校長挨拶（翔杉祭の感想）

- ・小学部は、日頃の学習や頑張りを「きらめきの花」に見立てて共同制作し、披露した。
- ・中学部は、和太鼓演奏をした。迫力ある演奏で、心に響いた。
- ・高等部は、自分の強みを活かしながら、映像制作をした。ドキュメンタリーのように、最大限の力を発揮することができた。
- ・訪問教育の児童生徒の学習に取り組む様子を映像で観た。本校の児童生徒は、同年代の児童生徒が学んでいる様子をじっくり見ている様子があった。
- ・改めて、児童生徒たちが自分の力を発揮して、地域社会とつながる大切さを学ぶことができた翔杉祭だった。
- ・現在、統計によると不登校は約30万人、公立だと6.3%になる。本校も原籍校で不登校だった児童生徒がいるが、今後どのようにして地域とつながっていけばよいのかということを考えていきたい。

3 校内参観

4 前期の取組、評価（副校長、各部主事、副主事）

- ・前期の取組（重点目標に対する取組を中心に説明）
- ・地域の資源を活用した取組（活動写真を提示しながら説明）

小学部…買い物学習として、天竜厚生会本部敷地内の「スーパーはまな」を利用したり、バリアフリー学習として、天竜ワークキャンパスの「喫茶ちゃむ」を利用したりした。本校の児童は、入院中ということもあり、様々な制限があり、遠方の校外学習に行くことが難しい現状がある。地域の方による読み聞かせも実施した。

中学部…遠州天竜龍勢組の方から和太鼓の指導を受けた。プロの方に教えてもらうことで、本物の演奏に触れることができ、一生懸命取り組む姿が見られた。

天竜厚生会の職員から福祉について学び、車いす体験等も行った。家庭科の「幼児教育」という単元では、ひまわり保育園で幼児と交流も行った。

高等部…トライアル実習として、天竜福祉工場で2時間程度の作業をさせてもらっている。また、みゅうの丘では球根を一緒に植え、次回は窓拭きや清掃などを計画している。天竜区内の福祉作業所からは、委託作業として校内で取り組んでいる。

訪問教育…活動している様子をビデオに撮影し、互いに「知る」という所から始めている。より交流を深めていくにはどうしたらよいか考えていく必要がある。

5 意見交換（校内参観や前期の取組等の感想、地域とのかかわりについて）

委員A…小学部の児童が少ないと聞いた。低学年の児童の保護者が入院することへのハードルが高いと感じる。児童自身への動機付けが難しい。

みゅうの丘ツアーについては、近隣の学校のみでなく、浜松市内の学校に情報提供するとよいと思う。最近では、100円ショップで購入できる物が増えており、授産製品がなかなか売れないという経験があった。そこで、「ブランディング化（購入すると寄付される）」という制度を知った。テレビで、高校生が地域の企業と様々なものをコラボレーションしているのを見るが、天特も天特ブランドを作り発信していく活動もありだと思ふ。

委員B…作品展示は、協力して丁寧に作り上げ、達成感があったと思う。非常によかった。授業は、先生方が様々な工夫をしていた。

委員C…高等部生徒が、パソコンに向かう目つきが違った。真剣に取り組んでいた。好きなことに向かう姿が素晴らしい。

みゅうの丘ポスターは、駅に掲示することは可能である。みゅうの丘ツアーは、小学生のみを対象にするのではなく、中学生や高校生に広げてもよいと思う。清掃チーム4～5名を1グループとして、アシストサービスを実施している。インターンシップも実施している。

委員D…みゅうの丘ツアーは、来てもらう理由づくりをはっきりすることが大切である。授業の一環で、実習以外に来てもらってもよい。物づくりの関わりは可能である。

委員E…努力されている様子が伺える。地域とのつながりとして、天竜特支は、限りある時間の中で人とのつながりをもつことが大切である。

委員F…翔杉祭の作品は、近くで見るととても想像力があると感じた。各学部とも、頑張っていた。ちょっとした時に、みゅうの丘について知ったり、見学できたりするとよい。お年寄りの家に出向き、花を届けたり、話をしたりするのもよいと思う。

委員G…学校と一緒にみゅうの丘ツアーのあり方について考えていきたい。以前、所長をやっていた時は、1日10社飛び込みで話を聞いてもらった。100社に伺って1社もらうくらいだった。愚直な取り組みが必要。花いっぱい活動は、プランター設置から始めるとよい。頻度が多いと必然的にコミュニケーションが増えていく。その一方で、学校の先生方の負担も考えていく必要がある。

地域とのかかわりについては、毎年話題にあがっている。肝心の児童生徒たちからその話題は出ているのか。「自分たちが地域を支える側だよ。」と児童生徒に投げかけることも大切である。

校長…天竜特支は、地域から支えられている。その一方で、児童生徒が地域を支えている。作品展示だけでなく、児童生徒が地域貢献する活動が広がって欲しい。例えば、小中学部の児童生徒が制作したしおりを高等部の生徒が交通安全週間で配布をするなど。天竜特支の特色をもっとアピールしていきたい。

副校長…花いっぱい活動は、地域にも投げかけていきたい。まずは、PTA活動からつなげていきたい。制限のある中でも、できる範囲内で地域資源を活用した学習を行っていきたい。